

年間授業計画

教科:(工業) 科目:(機械実習) 単位数(3単位) 対象:(第2学年 M1組・M2組)
 教科担当者: (M1組: 台 拓也 (印) 佐藤 利章 (印) 今 大樹 (印))
 (M2組: 伊藤 正一 (印) 台 拓也 (印) 竹内 勝彦 (印))
 使用教科書: 機械製図 使用教材: 機械実習1・2 (実教出版)

1年間の計画を確認した後押印

教科	教務	副校長	校長

	指導内容 【年間授業計画】	科目(機械実習)の具体的な指導目標 (自校のスタンダード) 【年間授業計画】	評価の観点等	予定 時数
4月				0
5月	○1組と2組の生徒を旋盤・フライス盤・CADの3つの項目に分けて、ローテーションで実習を行う。			8
6月	旋盤	○1年時におこなった実習内容を生かし、各種機械を応用的に活用し、発展的なものづくりができる能力を育て、身に付けさせる。	○各指導項目に対して基礎・基本・原理・操作方法等を理解できたか作業をおこなう中で確認し、評価する。	13
7月	大型の6尺旋盤を用いて、国家資格である検定試験「工作機械・旋盤加工」の3級受検のための入門的実習を実施し、2学年後期または3学年前期の検定試験受検に向けた指導を行う。更に3学年にて実施する課題研究における「ものづくりコンテスト」への参加者を養成する。			12
9月		○工業における数値的根拠について理解させるとともに、その方法や理論について学習し、ものづくりの原点、原理について理解させる。	○製作する実習においては、図面から完成品の全体像を読み取り、工程を組み立て、正確に完成させることができるかを判断する。	13
10月	フライス盤			13
11月	フライス盤を中心として、ボール盤・コッターマシン・直立ボール盤・手仕上げおよび各工具等を活用して、総合的に機械工作法を学習する。基本教材としては検定試験「機械加工フライス盤作業3級」の加工の実力を付ける。	○実習科目における報告書と就職後の企業における書類の重要性についてリンクして考えさせる授業を展開し、進路を意識した授業の組み立てをおこなう。	○2次元・3次元CADの機能や基本操作、活用などについて理解を深めるなど、実践的な知識を身に付けているか。	10
12月	CAD			10
1月	初級CAD検定合格レベルを習得することを目標とする。2次元と3次元のCADソフトを使用し、双方の技術習得を狙う。	○使用する機械や工具の名称や使用方法について学び、身に付けることで、技術者としての意識向上と基礎知識の向上を目指す。	○全項目について報告書を提出させ、その内容について評価する。	8
2月	○ローテーションの時期			10
3月	各クラスを3班編成に振り分け、各実習項目ごとに30時間前後としてローテーションを行い授業を展開する。			8